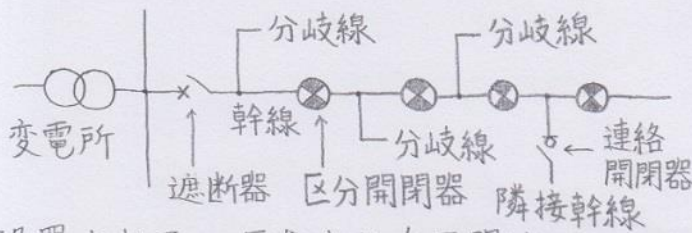


203. 樹枝状配電方式とループ配電方式

樹枝状(放射状)配電方式



設置される。区分された区間は、隣接幹線から電気を送受できるように連絡開閉器を設置し、電力の供給信頼性を向上させる。平常時は区分開閉器が「閉」、連絡開閉器が「開」になっている。故障発生時には、故障区間の区分開閉器を「開」にして故障区間を切り離し、健全区間には他の区間から連絡開閉器を介して電気を供給する

(特徴)・事故時の停電範囲が広い

・構成が単純であり、建設費が安価

・需要家増に対して、容易に対応が可能

・他の配電方式と比べると、供給信頼度が低い

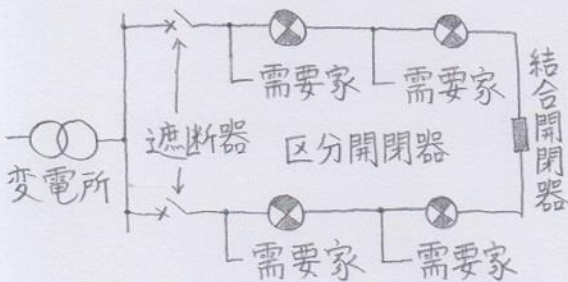
・低圧配電線路はほとんどがこの方式。高圧配電線路でもループ方式と共によく用いられる

・幹線と分岐線を適当に区分できるように、区分開閉器が要所に

低圧、高圧配電方式で多く採用されているのがこの方式ね



ループ(環状)配電方式



・2つの配電線を結合開閉器で結び、ループ状に構成されている。事故等が発生した場合は、事故点両側の区分開閉器を「開」にする。ループ状の構成のため、区分開閉器が「開」になっても、健全区間には常に電気が供給される

常時開路式: 結合開閉器を常時「開」にし、故障発生時に「閉」にする

常時閉路式: 結合開閉器を常時「閉」にする

(特徴)

・故障が発生しても、その区間を除けば、健全部には常に電力が供給される

・常時閉路式では、電圧降下や電力損失が軽減される

・電力供給信頼度が高い

・建設費がやや高い

・保護方式がやや複雑

高圧配電線路に用いられる

日本では常時開路式が採用されている



1回線ループ、2回線ループ、多重ループが有る